

公表

事業所における自己評価総括表

作成年月日 2025/1/22

○事業所名	ヴィストカレッジ富山中央 訪問支援とやま		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		2024年10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日		2024年 10月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活に密着した支援	利用者が実際に生活している集団場面に赴いて支援を実施しているため、実際の場面における課題が明確となり、そこに介入することができる。園や学校の関係者に、なぜこの課題が生じているのかを実際の場面をみながら説明することができ、具体的な支援方法を提案することができる。	具体的な支援方法を提案する際に、担任の先生がより実施しやすい簡易な方法を提案できるようになること。
2	専門的な支援	現在主で訪問を実施しているのは、心理資格を所有しているスタッフである。そのため、教育や保育の視点からではなく、心理学的視点で課題を検討し、支援方法を伝えることができる。心理検査等のエビデンスベースの支援も実施しているため、信頼されやすい。	より信頼していただけるように、インフォーマルアセスメントだけでなく、フォーマルアセスメントを徹底していく。
3	関係機関連携	保育所等訪問支援で明らかになった課題を対象児童が通所しているヴィストカレッジの放課後等デイサービスや児童発達支援施設の担当スタッフに伝え、ワークに取り組んでもらっている。各担当者が対象児童の課題への共通理解をもつことで、一貫した支援を提供することができる。	今後は、対象児童が通所しているヴィストカレッジの放課後等デイサービスや児童発達支援施設の個別支援会議に参加するなどして、より密に連携をとりたいと考える。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援のガイドラインについての周知が弱い。	保育所等訪問支援のガイドラインは作成されており、待合室等に掲示はしているが、事業所に来所する保護者が少なく、確認できる機会が少ない。	面談の際など、保育所等訪問支援のガイドラインの内容を確認したい保護者がいれば、持参し、確認してもらう。
2	他拠点スタッフへの保育所等訪問支援についての周知が弱い。	保育所等訪問支援を利用している児童・園児の放課後等デイサービスおよび児童発達支援施設の担当スタッフは保育所等訪問支援のサービス内容について理解しているが、関わりのないスタッフはサービス内容について把握していない者もいる。事業所として周知が足りていないと感じる。	今後、他拠点のスタッフを含め、全体が集まる機会などで、保育所等訪問支援のサービス内容について周知し、保護者に必要な情報を提供できるように努めたい。